

◇教学財団百年史発刊記念シンポジウム開催

去る一月二十日（金）午後二時より、西本願寺高岡会館礼拝堂にて高岡教区教学財団主催の『教学財団百年の歩み』発刊記念シンポジウム」が開催された。（三頁に関連記事）

これは、一昨年、教学財団の設立百年の記念事業として九年間をかけて調査・執筆・編纂された記念誌『百年の歩み』について、再びその発刊の意義と内容を再確認しようと企画されたもの。教学研究室の岡西法英

さんをコーディネーターに、津山玄亮さんと公文名眞室長らが調査内容をもとに百年の歴史をふり返った。

企画した教学研究室では「今回のシンポジウムの参加された方々がそうであったように、高



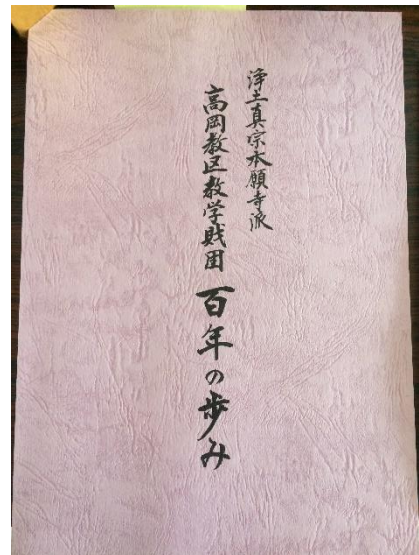
～水波組教区会議員 補欠選挙について～

平成29年2月2日付、水波組選出門徒教区会議員二上桂介さんの辞職に伴い、その補欠選挙を下記の通り施行します。

1. 期 日
2017（平成29）年2月27日（月）
2. 会 場
組長の定める場所

以 上

岡教区は門信徒の多大な尽力によって成り立ってきた。あらためて教区内の皆さんには『百年の歩み』をこー読いただき、これからの歩みの素地とされたい」としている。



◇同朋運動推進者養成研修会フィールドワーク

二月九〜十日にかけて、教区同朋運動推進者養成研修会（十八名）の現地フィールドワークが開催され、水平社の創立メンバーで部落解放運動に重要な役割を果たした西光万吉ゆかりの地である和歌山県と奈良県を訪れ、学びを深めた。

初日は西光万吉が最後の時を過ごした土地に建てられた、和歌山県の西光万吉資料館を訪れ、西光万吉顕彰会の代表理事である飯田敬文さんから戦後の西光万吉の歩みについて解説いただいた。西光万吉は戦時中、太平洋戦争を解放戦争として賛美し、積極的に推進する運動を行っていたが、戦後、戦争の実態が明らかになるにつれ、自らの戦争協力を深く恥じ、その後は一貫して『不戦和栄』をスローガンに掲げ平和運動に尽力する傍ら、戯曲家・画家としても精力的に活動していたことをお話しいただいた。

その後は戦国時代に本願寺とともに最後まで織田信長と戦った雑賀衆の拠点であった和歌山市中心部を訪問、部落解放同盟和歌山県連の池田さんからこの地区の歴史と同和運動についてフィールドワークを交えてお話をいただいた。お話によると雑賀衆は様々な職種の人々がいたが、身分の上下がなく、年寄と呼ばれる



東日本大震災追悼法要

（主催：高岡教区）

日時：3月11日（金）午後2時46分

（震災発生時刻）より勤修

会場：西本願寺高岡会館礼拝堂

内容：東日本大震災追悼法要

（仏説阿弥陀経）

講演：「生きがいの復興

～避難解除を控えて～

講師：杉岡 誠 氏

（飯館村役場職員・東北教区

相馬組善仁寺住職）

※詳細は同封の案内チラシをご覧ください。

ださい。

代表者三十数名の合議制で統治されており、宣教師のルイス・フロイスはその様を「百姓の仕切りたる国」と書き残している。有名な雑賀孫一も、雑賀の頭領などではなく、鉄砲衆を率いていた年寄の一人にしかすぎないそうである。宗教も浄土宗、真言宗、一向宗と多様であり、真宗も全体の三分の一でしかなかったが、特定の雇用主を持たない傭兵集団であった雑賀衆が、不利な状況にもかかわらず最後まで本願寺側についていたのは、織田信長の描くピラミッド型身分社会を拒絶していたからだとお話をいただいた。また、同和運動史については、和歌山は元々融和運動が盛んであり、その中心となっていたのは真宗寺院で、解放運動の高まりによつて寺院と門徒との関係が悪化し、最終的には門徒の七割が寺を離れる結果となったものの、離檀した門徒を引き受けてくれる寺はなく、困っていたところに引き受け先となったのが同じ真宗の興正寺派であったというお話をお聞かせいただいた。

二日目は水平社始まりの土地であり、西光万吉の生まれ故郷である奈良県御所市の水平社博物館を訪れ、フィールドワークを交えて水平社設立の経緯と西光万吉の果たした役割について学びを深めた。折しも奈良では珍しい吹雪という悪天候ではあったが、参加者は「本で読んだだけの知識が、現地を見ることにより、自分の中で初めて生き生きとした知識となった」と寒さに震えながらも研究員のお話熱心に耳を傾けていた。

◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

『百年の歩み』から問われたこと

全国でも唯一無二の財団立の教区、高岡教区はどのようにして誕生し、どのような百年の歩みを辿ってきたのか、『百年の歩み』をおさらいする興味深い内容が盛り沢山のシンポジウムだった。印象に残った一部を紹介したい。

まずは、廃藩置県に伴って加賀藩だった当地が、石川から離れて富山と合併し、呉西の教学の中心だった水波教校が、富山の空華教校と合併させられたことで、独立が悲願となり、財団誕生の発端となったことだ。宗祖六百五十回大遠忌法要の還付金を資金に高岡教区は自主的に独立した教区となった。その後、「高岡仏教学院」の開設、戦後の「清光学園」、「ひかり幼稚園」「さくら保育園」の誕生、高岡会館の移転新築など、数々の事業を財団は行ってきたのだ。先人たちの力と先見性に改めて驚かされた。

次に、明治政府を作った幕末の志士たちの多くが防長の本願寺派の門徒であり、同時に彼らと本願寺寺院は緊密に繋がっていた事実だ。宗門内の中心的人物の島地黙雷と赤松連城らは、伊藤博文や木戸孝允などと共に欧州留学をしている。明治政府のリーダーたちは、キリスト教のような基軸となるものが日本にないことに対して、神社信仰を統一して天皇中心の国家神道を作り出した。伊藤博文は、教育勅語を作成して国民にその思想を定着させた。島地黙雷は、最初、国家神道に批判的であったが、それに代わる仏教的な価値を提示することができず、国家神道に迎合していくことになる。「ここに私たち真宗教団の停滞の淵源があるように思う」と語られた公文名さんの言葉が印象に残った。

岡西さんからは、「教学財団設立の趣旨・目的は、『教学の振興』と『人材の育成』だった。その意味は、寺院、僧侶だけを対象にするものではなく、僧侶、門信徒一体の『教学の振興』『人材の育成』だったことを忘れてはならない」と紹介された。寺院中心、僧侶中心の視点に立つて考えている自分の立ち位置を問われたように思った。

津山さんが、「先輩たちは財団設立の趣旨に基づいて様々な形で事業を継続して来られたが、七百五十回大遠忌の時に私たちは何もできなかった。『やろう』という声さえ上がらなかったという事態に忸怩たる思いをもっている。自己批判しなければならぬ」と述べられたことが心に残った。同時に今後、聖典セミナーなどの活動の拡充をはかり、組や寺院を超えて社会に還元できる活動を行う必要があると提言された。

公文名さんは、ここまで精緻に百年の歴史を明らかにしてきたのは、高岡教区が自主的に財団を作ったからであり、そのなかで見えてきた、近代にふさわしい教学を模索しようとする、「異安心」のレッテルを貼り排除してきた宗門の姿勢を批判された。「寺檀制度にのっとった教化活動も必要だが、限界にきている。現在の宗学は、根本的な教えの枠組みを変えず、国家主義に向かうか、個人の内省の世界に止まるしかないものになっている」と重ねて批判した。今後は、高岡教区の自主性が重要だと指摘された。

今回のシンポジウムの参加者の多くが門徒さんたちであったことから、門徒さん方の関心が高いことを感じた。この『百年の歩み』を再読する中で高岡教区に出会い直し、先人たちから問われ、導かれていることを感じた有意義なシンポジウムだった。これからの歩みの礎として繰り返し尋ねていきたい。

◇これからの日程（2/20～3/17）◇

2月	教区・財団行事	教化団体・組行事
20		管区矯正打合 スクールナーランダ打合 いろは塾
21	連区職員研修会	
22		コーラス（夜） 長寿苑ビハーラ活動
23	宗務調査委員会	
24	聖典セミナー	
27	水波組教区会議員選挙	富山龍谷教学会議例会・ 役員会
28		ハンセン病役員会
3月		
1		雨晴苑ビハーラ活動
2	第4B総代研修会 常備会	仏壮理事会
3	第2B総代研修会	
4		中仏通信生のつどい
6	常任委員会	
7		課題にもとづく法話研修 布教団役員会
8	第3B総代研修会	講社役員会
9	組主幹協議会	
10	第1B総代研修会	
13	教区委員会	
14	常例法座	
15		コーラス（昼）
17	聖典セミナー	仏婦常任委員会

☆お知らせ☆

「法輪せんべい」販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかが
でしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下
さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

- ・特大箱（175袋）8,300円
- ・大箱（36袋）2,300円
- ・1組（10袋）500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）

Tel.(050)5587-7708(代表)

Fax.(0766)21-5152

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎2/18（土）：佐藤 知水氏

（本願寺派布教使・岡山県光榮寺衆徒）

「メリシャカ ～若い世代に向けて～」

◎2/25（土）：山田 真悟氏

（本願寺派布教使・大阪府大乘寺衆徒）

「真実に気付かせてくれる阿弥陀さま」

□2/26（日）：織田 隆夫氏

（高岡教区五位組長光寺）

◎3/4（土）：山田 真悟氏

（本願寺派布教使・大阪府大乘寺衆徒）

「未 定」

◎3/11（土）：松月 博宣氏

（本願寺派布教使・福岡県海徳寺前住職）

「未 定」

□3/12（日）：未 定

（富山教区）

◎2/18（土）：松月 博宣氏

（本願寺派布教使・福岡県海徳寺前住職）

「未 定」

【西本願寺高岡会館3月の常例法座】

ご講師：林 要 順 氏

（高岡教区砺波組明覚寺）

ご講題：『 未 定 』

午後1時20分頃からビデオ上映、2
時からお正信偈六首引のお勤めです。ど
うぞお誘いあわせてお参りください。